

洋学文庫



洋学文庫

文庫 8

D 396

5

10

15

20

文庫 8
D 396



陳保民白藏書

010190617969

41- 7125

文政六年

長崎市津島之馬



一 橋河津之札

拾貳串

一 大波戸津之札

七串

一 出島津之札

貳串

一 唐人屋敷津之札

六串

一 長浜村津之札

八串

一 山甲村津之札

八串

60 65 70 75 80 85 90 95

一 小海村河乳 六半

一 大思河河乳 六半

一 西盤河河乳 六半

一 小瀨戶河乳 七半

一 箱伏塩河河乳 七半

一 神清大向尾河河乳 七半

一 古生田河河乳 四半

一 浦之河河乳 七半

一 大思河河乳 七半

一 梳乃河河乳 七半

一 小川河河乳 七半

一 板河河乳 七半

一 狭野河河乳 七半

一 出為外新地外海傍尔梳

一山林守札 拾七年

一唐人至交海外守札 七年

一山瀨守守札 七年

一和津守守札 七年

張何十三年

禁制 肥前 長濟

去古

一伴天連日本守札 七年

一日本武具異國守札 七年

一日本入異國渡海守札

附日本守札 異國入回守札

右條守札 守札 守札 守札

政屬守札 守札 守札 守札

貞享四年十二月日

奉引

諭唐船諸人

一山番

耶穌和徒

蠻俗曰天主教以罪惡

深重故其駕船所來者

先年悉皆斬戮且其徒

自阿媽港發船渡海之

事既停止之自今以後

唐船若有載彼徒來則

速斬其身而同船者亦

當伏誅但從雖同船者

告而不匿則赦之可虞

賞事

一耶穌邪徒之書札并贈
寄之物潛藏齎來放日
本則必須誅之若有違
犯而來者速可告訴焉
猶有匿而不言者其罪
同前條事

一以重賄密載耶穌之徒
千船底而來即可早告
之然則宥其咎且其賞

賜可倍於彼重賄事

右所定三章如此唐船
諸商容皆宜兼知必勿
違失

貞享四年十二月日

奉行

定

三つ志を人京門ハ累年沖割禁
より自然不審成者有し其申出る
カ沖度美くしてこそと人の改人
根又百枚

いふまゝ人の改人 根三百枚

之改者く改人 男

同名并京門改人 根百枚

布し通す事りたる人同者京門

之内よりとて改人に出る品

より根又百枚可事り隠重地

可ありいれ小あつていす事

名目及人但近一類若くは以て衆
科也也

西徳元年正月日

瀬戸年日
奉行

定

- 一 伴天連入漏想の切支丹宗門者
不可隠匿事
- 一 異國住宅に日本人若くは朝者
不可隠匿事
- 一 人賣買信止り但年一季者
七十年と限る事
- 一 唐人等者よ之家を賣買者
名目す
無くとも事

附言人常買者不地事

- 一 武士等異國人常買物
信事
- 一 異國人の物を買取渡す
事
- 一 知り賣買者相友隣人
買事
- 一 に廿合銀次と傳事
- 一 分洞并群類後着字の外
取事
- 一 喧花口傳信事
- 一 博賣一切信事

右條に遠犯し軍に於て者たる處
殺料有也

卯月

山崎元吉筆由文

定

- 一 親父兄弟夫婦と始末親類小者等々
下人等をあつてせしめてあつてい
—主人の軍小者もせしめて
すべし事—
- 一 家業をまかりし者ありあつて
其分限をすくはるゝ事—
- 一 いかゞりとする—又かゝる理の思ひ

人々害よありしを成すべし事—

- 一 博奕の類一切は禁制し事—
- 一 喧嘩口論とけし—み若し事—
ありけし—りよあ合るゝ—はひ
たつとりの隔—並るゝ—りあり
- 一 鉄炮槍を有るゝ—は若遠犯し者あり
し—出る—隔—並地而分取らるゝ
—罷す明るゝ事—
- 一 盜賊惡黨の類ありは中出る—
者度々慶賀たつるべし事—
- 一 死罪小刑とるゝ者あり時刑某れ
るゝ—り—るゝ
- 一 人賣買ありし—係止す但男女—下

入成り永年一季成り後代より重
事ハ相對位とへり事

附後代の下人又公其而より付たり事
他亦其成ありとと持あり事

その呼はるへりこと但附料あり
者ハ制あり事

有し條し寸相守し其相對者
は附附料と也

正徳元年二月日 奉行

條

一 伴天連其切支丹家口は後黒國

が日本渡海し沙汰近年一季あり

自然右急成り其渡後付可有事

一 先年黒國より其遣之南蠻人

子共伴天連不可仕立企有り他は

其渡海し伴天連共中之候其子孫

は伴天連と成り若日本取成他は

日本へ其渡後付多し日本へこと

と其相渡後付可有事

一 黒國取近年一季若し渡海し他を

るの百海し渡後付可有事

其近市に其渡後付可有事

其出り出へり渡後付可有事

其出り出へり渡後付可有事

其出り出へり渡後付可有事

其出り出へり渡後付可有事

其出り出へり渡後付可有事

其出り出へり渡後付可有事

不承其類又ハ其内より一在申
者ト云及四事ト云ト云ト云ト云
ト也

右條ノ海上見候ト云ク素々者
勿湯梳取ノ事其外ノ者云返念
美見出—す出—奉行所迄—
申出—者也仍下知如件

卯十月
長崎村 三申
山甲村 三申
小瀬戸 三申

定

一 毒業并似と未種賣買ノ事

禁制と差違犯ノ者ありはテ罷

申出—た—ハ同類ト云々ト

申出候—ち—ハテ罷と申され

意及及ノ度及ノ事

一 似と合限賣買一切小作止と若

似と合限賣買一切小作止と若

似と合限賣買一切小作止と若

似と合限賣買一切小作止と若

似と合限賣買一切小作止と若

附懸—て似相—ト云々ト

一 賣取承—新張金子—賣買ノ事

賣取承—新張金子—賣買ノ事

賣取承—新張金子—賣買ノ事

事

一 新張ノ事候所外一切張出以不

一 新法に倣うしつゝの書物賣買より人
しつゝの事

一 諸蔵人の以て金と佐新の口官候者言
事と云ふしつゝの法高賣物成て一はよ
買事と云ふしつゝの或は以て金せしる事と
云ふしつゝの事

一 竹事と云ふは折物と云ふしつゝ後遺と
候事と云ふしつゝの事

右條と云ふ事しつゝ若し相背者可
ら以て罷科と云ふ也

西徳之元年一月廿日 奉行

定

一 大に身方者以て云ふしつゝ出へ

美徳並ふ事しつゝ其の罷中より
魚し候令目取をりしつゝ其由
おろし候と罷と云ふしつゝ其及許
度表より下る事しつゝ

一 大に身方者と云ふ事しつゝ捕り
し出る事しつゝのしつゝ入しつゝの
事

一 ありしつゝ者ありしつゝ廿んしつゝ
ありしつゝの事しつゝ連來たる事しつゝ

一 大に身方者と云ふ事しつゝ捕り
し入しつゝの事しつゝ

一 大に事備其外しつゝしつゝ西の金限法
と云ふ事しつゝありしつゝの事しつゝ
ありしつゝの事しつゝありしつゝの事

龍軍のついでに今日に於ては、
中出軍ハ、龍軍のついでに、
ト云々

右條に於てある、
龍科との也

西徳元年一月廿日 奉り

條

一 公儀に於て不令、
時、物取と云、
可入格事

一 取及換、
并物取具、
物、内浮行也、

一 川取、
一云揚者有りて遣、

一 沖、
一云、
事

階取、

一云、

一云、

死、

一 澁、

と云、

と云、

と云、

丁卯通事

一 沙城東曰河外水自不登之西形
 之積其日如終節其令破其之聖
 沖之形改可為回幸一想而理不盡
 以中忽之又之秋四於有之十出
 之能維為同於七料之有之十出
 度其之有之十出之有之十出
 丁卯 作舟之事

一 博奕想而賭之法勝負亦變之為

傷止之事

右軍之相守以命若思事一其五
 力之出下之君及之度其之有
 之科人之羅之怪中之值人之有
 沙流之也

山陰戶三年四月

延寶八年九月日 奉次

市之有之浦之有之札相是

之依之形之不及中法也取之極成
 手之依之 作舟之有之遺題風之節
 所之者共取之物之不亦亦却由破取
 之之之之之之之之之之之之之
 形以之今不注之依其有之極其
 不而之之之之之之之之之之之
 之之之之之之之之之之之之之

言及平廿八若此之不博し依れ有し
去後日抄多作共主者に子一及子
市者と下月以重料其の上と市
法代官地既近す為執方其事

一 沖城并取近年一取取多存付今取
徳事一在改則百大切下仕命申渡取
是し依後海く不火取小大取取夜
去の其外由く一取と市文配く
沙代官より取足定し市極下と手
取以水く一人取と市減り取と市取
中村今運満管より依く渡(考)取
分も取以水自人取并取足極下と通
二在邊が運状三引金取夜在改監面
よ記重と市取以下取為改取書其共

市富並沖料ハ沙代官取願也地頭
若くは沙代官并地頭ハ沙勘定書
と下月取取取又極下より取足取
入り取有しり一取依取委御改し沖
城并外取取取運貨と取地と并
取取取取取一并取取取取取取
人取取の内と取サの取一取取取取
其取取取取取取取取取取取取
事運取取取取取取取取取取取
有し取早運沙勘定書取取取取取
一 取取取取取取取取取取取取
取取取取取取取取取取取取取
取取取取取取取取取取取取取
取取取取取取取取取取取取取

海軍一

右ノ條ノ者度下ノ守ニ着込
軍中ノ令ニ合致スル下ノ以テ
石ノ事ノ子細者其ノ元
沙汰官又モ地頭等ノ者度下
正徳二年一月日

市ノ類々 作州作未
之の也 亦及下ノ守
小治ノ事自又
奉以

條

一 浦ノ事ニ
後行ノ買及者有之
彼令初ノ其事ノ子細
借ハセテ
之同種
以ノ事
者ノ借
其ノ事
之也
告也
是事
地頭
之也

彼令初ノ其事ノ子細
借ハセテ
之同種
以ノ事
者ノ借
其ノ事
之也
告也
是事
地頭
之也

上等仕者より重税米徴収せよと
不成下りし事

一 板行仕者と同敷し内へ百捕(或は取
人仕者)を方し行物に度差しと
可なりし事

一 唐人の板買と申合ふ布し合合し
取次と云々し或は板行仕者れ
たることのみ板行物に唐と成る事
事之携りし者事一 取人仕者も
名及し度差しと申へたること
そりしことと申科と云し度差
禮儀(礼儀)と云し一信可なりし事
附品と云し板行仕者高し

或は何れ取ら行物極り臨一重集
或は合仕者たりと云し取
人仕者も又と科とありし事
とりし事一 右同布を方

布し條し急度取寄し差存す
臨重外より今取寄るに科中人
可なりし事

西延四年一月日

山瀬戸 壬午 大島町 壬午
長持村 同 西飛南 同
少島村 同 同
山内村 同 同

奉行

漢之り日ありし事

定

日人異國人法法及海之衣
 何夏忍事とたくと禮物と出
 極者有し去方及山出と後
 日外よりとふとと外とあり
 于礼想と一信法りふいもる
 着源直海人於有んと下と
 之の也
 卯月

禁制

一 許さくして唐人權外(四)等
 一 傾城介女人入事

一 出家山伏諸勅進との并乞食人
 事

右條と相守り着遠肥(省)下下島
 回事(省)也
 卯月

禁制

北葉 長行

一 伴天連日有と云渡事
 一 日有と武具異言と持渡事
 一 日有人異言と渡海と事

附日本付宅と異國人回音と

右條と於遠肥と誰者速下被處

農科有越仍不知如件

元禄二年七月日

奉行

定

一 兼日相立並改人外之門より内
下史信止し事

一 唐人の包相立高賣物有し事
留置し下中如事

一 梅月一持人の諸事と事外一持出京
の番而も相改し下中事

右ノ趣旨下中守者也

卯十月

論唐松諸人

右真又名沙丸一車一橋所
才二日又略

嵯峨村 各回り

定

一 伴天運入満惣る吉利夫入丹波門
者下中隠置事

一 異國住宅の田中人若於序部七
石下中隠置事

一 人賣買信止し事 但年季者ハ
下限於年事

一 唐人等者之家と賣買高の事

白くしる事

附主人の希有者不三抱在事

一武士の向の異國人の希有り也買
物信止す事

一實心人の物を買取限り不三致進
事

一ゆりゆりふ事其物も諸人へ
とてて、平一買事

一五世限次由人申し事

一分洞兵祥の敷後名号の外
に事つて人し事

一富海以後信止す事

一特要一切信止す事

右條の透犯の輩に有る可事
炭科七也

辰月

長崎
奉行

條

一浦のちりし水と借り以て買取
し板并と買取者有る中相定也

正徳四年二月日

奉行

勿論概形は詳甚な御し者よ
面々言々見出さし中一を以
て可下と出さし是仍執達御

辰月

奉行

己より四月の尻の一切出
入仕立を以て大元帳とてひ色
〜〜〜也

五月

瀬戸

定

四月廿一日

〇〇〇〇

〇〇〇〇

奉行

定

一俵天連入満惣〇〇〇〇者不

下隠重事

辰月

〇〇〇〇

奉行

〇〇〇

一俵天連并〇〇〇〇〇〇〇〇

早渡海一沙汰近年一々多自出
古徳寺一々渡海可有事

早渡海可有事

知青日

長行 奉行

修

一公依之船之不及中諸船之船亦遺忘
内時之船之出—船不破板板處
船丁入船事—

以下所才其同又

辰亥月日

奉行

市一々一浦一高札相建

公依之船之不及中諸船之船亦遺忘

市一々一浦一高札相建

市一々一浦一高札相建

修

以下所才其同又

浦一々一浦一高札相建

奉行之買取者有之相中

西徳四年二月日

奉行

修

一為國取一々一浦一高札相建
市一々一浦一高札相建
有之相中者有之相中
か〜ハ

正徳四年十一月

正徳四年十一月

奉行

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

定

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

正徳四年十一月

有るに平一云々者科七云々

成
七月

出活邦系新地外海一係示

深見月二切取五云々交入七也

商人云々西邦水年
形二人のうらり一帯人云々小使一外周年

云々者此其人は男云々いふ格入云々也

の右云々たわく云々及回年一戸付

との也

寛
十二月

左馬番所合 丑年七月
又番番所入也 寛十二月 同

山瀬洋流米麻 壬午年

云々所地一用日一用一との一四入

云々云々云々云々の也

天
十月

空



